

第 1 回 阪神高速事業アドバイザー会議 議 事 概 要

1. 日 時：平成 28 年 6 月 2 日（木）16：00～17：30
2. 場 所：阪神高速道路株役員会議室
3. 出席者：北前委員、近藤委員、斎藤座長、正司委員、中浜委員、松村委員、矢野委員
4. 座長選任等：
委員の互選により、座長として斎藤委員が選任された。
斎藤座長より、座長代理として正司委員が指名された。
5. 議事要旨：
「議事(1)会議の設置と審議事項等」について事務局より説明があり、会議の運営について、資料2のとおり了承された。

「議事(2)阪神高速グループにおけるこれまで(民営化後)の取組」、「議事(3)阪神高速グループビジョン2030」について、事務局より説明の後、委員から以下のとおり意見が出された。
 - * トンネルの痛ましい事故や、今後起こり得るとされている東南海地震もあることから、メンテナンスのための予算をつけて安全・安心な道路にしていきたい。
 - * 安全とコスト縮減はトレードオフ、相反するところもあるので、必要なところの見極めが重要。
 - * 笹子トンネル事故に端を発して安全・安心の大切さやプライオリティの高さへの社会への理解が高まったこと、かつ、そのような背景の中で償還期限が延長された(特定更新事業の実現)ことは安全・安心を高める点で大変良かったと思う。
 - * ミッシングリンク解消は関西の経済界としては一番望んでいるところ。大阪湾岸道路西伸部が一步進んで、あとは淀川左岸線延伸部を関西全体で応援したい。名神湾岸連絡線についても必要。一緒に協力・応援していきたい。
 - * 池田線梅田出路のゲートタワービルの例のように、創意工夫は非常に重要だと思う。また、これからは道路を作るまたは作り方を考えるだけでなく、高速道路という

インフラにいかに高い付加価値をつけ、楽しく快適なものにしていくか、道路空間をいかに充実していくかという発想を大切にしていくことが重要。

- * いずれE T Cのシステムを切り替わる時期が来る。次世代のE T Cシステムのスペックについては、高速道路を使いやすくするという点だけではなく、街を使いやすくすることの議論と絡めた議論となると思慮。
- * 有料道路や高速道路は鉄道でいえば特急列車であり、上級財のサービスにあたる。高速道路のレーゾンデートルをしっかりと踏まえ、これからのさまざまな課題に取り組んでほしい。
- * 関連事業を実施するには会社を挙げてどの分野で何ができるか、何をすべきかといった点の検討が当然重要である。また、実施するにあたっては、不退転の決意が必要ではないか。
- * 技術ノウハウを活かした新たな事業開発は道の一つかと思う。
- * 関連事業については、一般に経営資源ベースの多角化、マーケットベースの多角化がある。その点を踏まえて事業体としてどのような戦略をたて、それをどう管理していくか常に考えなければならない。
- * 民営化後の10年、ほぼ計画通り進められてきているように思うが、今後の成長モデルというかこれからどう成長していくのかというのが課題ではないか。
- * 民営化以降、個々の事業について色々取り組んでいてその経営努力を高く評価する。距離料金制への移行は良い判断だった。今後、会社の自律性についても考えていくことが重要。
- * 関西における就職人気ランキングに入っていないことが懸念される。優秀な若手の人材を獲得することは、ゴーイングコンサーンとしての重要な責務としてとらえてほしい。

次回は秋頃の開催を予定

以 上